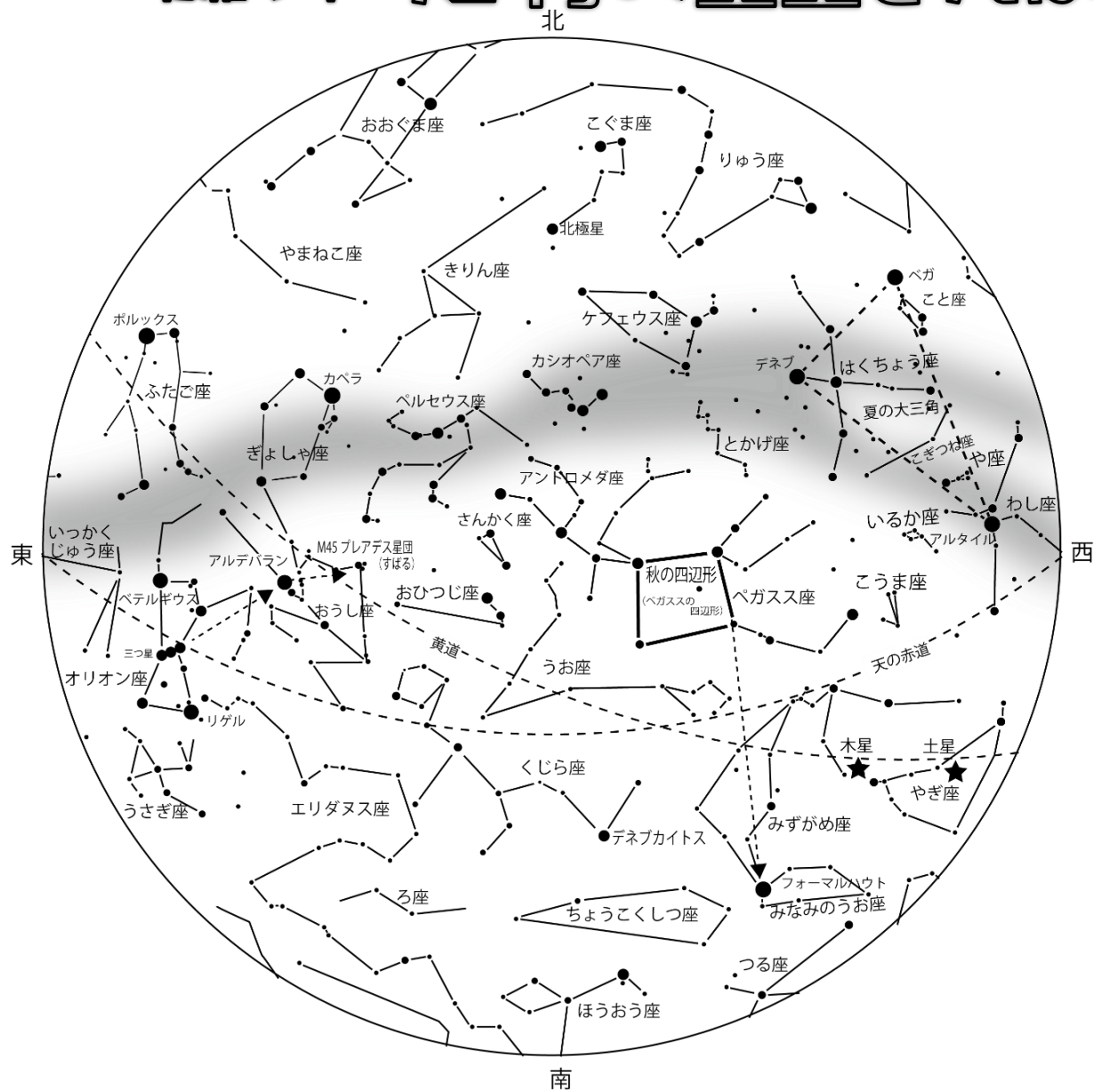


# 令和3年 12月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



今月の星空では、南から西の空で秋の星座が見えています。秋の星座探しの案内役は、南西の空で輝く同じくらいの明るさの星4つでつくる四角い星の並びです。この星の並びを『秋(ペガサス)の四辺形』と言い、『秋の四辺形』はペガサス座の一部です。『秋の四辺形』の西(右)側の辺を南の地平線の方へのばしていくと、秋の空で唯一の1等星みなみのうお座のフォーマルハウトが見つかります。また、東の空では冬の星座が見えています。等間隔に並んだ3つの星『三つ星』が目印の星座は、オリオン座です。その『三つ星』の左上で赤っぽく輝く星が1等星のベテルギウス、右下の青白っぽく輝く星が1等星のリゲルです。オリオン座の『三つ星』を結んだ線を上の方にのばしていくと、赤っぽく輝くおうし座の1等星アルデバランが見つかります。さらにその先には“すばる”という呼び名で有名な散開星団“プレアデス星団(M45)”を見つけることができます。肉眼でも6個から7個の星が集まっているのが分かるでしょう。

見頃を終える秋の星座と見え始めた冬の星座を、12月の星空で巡ってみてはいかがでしょうか。

## <見ごろの惑星> (☆マークは、今月のおすすめです。)

- 水星(-0.8等前後):へびつかい→いて座付近 観測に適さない。
- ☆金星(-4.7等前後):いて座付近 日の入り後、南西の低空でひととき明るく輝く。
- 火星(1.6等前後):てんびん→へびつかい座付近 観測に適さない。
- ☆木星(-2.3等前後):やぎ→みずがめ座付近 19時頃、南西の空で明るく輝く。
- ☆土星(0.7等前後):やぎ座付近 19時頃、南西の低空で輝く。(上旬)

## 注目の天文現象 ～明るく輝く金星を観察しよう～

今月は、日の入り後の南西の空でひととき明るく輝く星があります。「宵の明星」の金星です。夕方西の空で見え始めた5月頃は-3.9等の明るさでしたが、12月4日に-4.7等の最大光度になります。その明るさは、昼間の青空の中でも見えることがあるほどです。日の入り後の空では、日ごとに見える高度は低くなっていきますが、南西の方向が開けた場所であればすぐに見つけることができます。

この後金星は、1月上旬に内合(地球からみて金星が太陽の手前に位置するときのこと)となり、太陽と同じ方向に位置するので見えなくなります。12月の間に、明るく輝く金星を楽しんでみてはいかがでしょうか。

※太陽が出ている時間から金星を観察される際には、太陽を直接見ないように気を付けてください。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	土	● 新月 (16:43) 金星が最大光度 (-4.7等)	19	日	○ 満月 (13:36) ※地球から最も遠い満月(最小の満月)
11	土	◐ 上弦 (10:36)	22	水	冬至 (0:59)
14	火	ふたご座流星群が極大(条件:良)	27	月	◑ 下弦 (11:24)